



▼地域住民と一緒に危険箇所などを確認する児童たち



段から確かめておくことの大切さを呼び掛けました。その後、児童は地区ごとに11グループに分かれ、地域住民から地図上で過去の浸水被害を教わりながら危険箇所や避難先を確認。いざというときのために準備すべき物品や、各自の防災行動計画「マイ・タイムライン」の作り方を習いました。

大雨に備えて避難を学ぶ

甲佐小「防災ワークショップ」

6月24日（木）甲佐小学校で地域の災害リスクについて考える「防災ワークショップ」が開催され、同校（武永春美校長）の6年生32人がハザードマップを活用しながら大雨時の避難行動について学びました。

甲佐小学校運営協議会（豊永康法会長）が気象予報士の早田蛍さん（八代市）を講師に迎え、地域住民の協力を得て開催。ワークショップのはじめに早田さんが、昨年7月の豪雨での球磨川流域の被害状況を説明。大雨であふれそうな水路や、避難できる高い建物がないか、普段から確かめておくことの大切さを呼び掛けました。

高崎選手が南九州大会に出場

第74回全国高校陸上競技対校選手権予選大会

6月17日（土）～20日（日）熊本市で開催された第74回全国高校陸上競技対校選手権南九州地区予選大会の投てき競技に、高崎僚太選手（熊本工業高校3年・糸田区）が出場しました。

同大会の砲丸投で11㍍37、ハンマー投で38㍍71の記録を残す健闘を見せた高崎選手は「不甲斐ない結果で終わり、悔しさが残りましたが、いい経験ができたと思っています。残された高校生活の中での競技時間を一生懸命頑張りたいです」と大会を振り返りました。



▲南九州大会に出場し健闘を見せた高崎選手



▲オンラインで専門家と対話する甲佐高校生たち

他者との対話を通して夢実現を

甲佐高校で対話型キャリア教育がスタート

6月23日（水）甲佐高校でオンラインのキャリア教育が行われ、1年生31人がキャリアコンサルタントや産業カウンセラーといった専門家との対話を通して自己理解などを深めました。

この取り組みは、同校（堀川丞美校長）が、町公営塾「あゆみ学舎」と、企業研修などを手掛ける（一社）イキハタ（千葉県）の協力を得ながら新たに今年で実施するもの。

生徒たちは3～4人のグループごとに専門家と「友だちと親友の違い」や「友だちになりたいたいののはどんな人か」などについて意見交換しながら、自身の価値観を見つめ直しました。

無病息災を願う

「夏越しの大祓い」茅の輪づくり

6月29日（火）上揚の甲佐神社で、夏越しの大祓いを前に、地域住民が茅の輪づくりに汗を流しました。

夏越しの大祓いは、1年の半分以上が過ぎる6月末に行われ、茅の輪をくぐることで半年分のけがれを落とし夏本番を無事に越えられるよう無病息災を願うもの。

地域住民らが緑川河川敷などで刈り取ったカヤを直径3尺ほどの茅の輪に仕立て、参道に設置。30日には神事が行われ、参拝者が茅の輪をくぐりコロナ禍の終息を願いました。



▲茅の輪づくりに参加した岩下、緑町、仁田子の皆さん

ようこそ！にしきど先生

新しいALT（外国語指導助手）が着任



▲龍野小学校で行われた英語の授業で楽しく学ぶ子どもたちと英語でのあいさつを交わす錦戸さん



▲奥名町長にメッセージを伝達する佐藤さん(中央右)

明るい社会を目指して

第71回社会を明るくする運動

7月9日（金）郡内で「第71回社会を明るくする運動」が行われました。

上益城地区保護司会御船分会（眞淵正信会長）が主催するこの運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更正について理解を深め、明るい社会を築くことを目的に全国で展開。本町では佐藤啓二さん（下横田区）ら10人が保護司として活躍しています。7月の運動強調月間に当たり、同会が啓発活動を行いました。

7月1日（木）教育長室で、ALT（外国語指導助手）として着任した錦戸佑佳さんに辞令書が手渡されました。

ALTは町教育委員会に所属し、主に町内小学校の英語教育を支援するもので、各小学校の英語の授業に参加し、担当教員を補佐。地域の課外活動への参加などを通して、異文化理解のきっかけづくりにも取り組まれます。

カナダとアメリカに約3年ずつの留学経験を持つ錦戸さんは25歳。留学中に日本国内で学生を対象とした語学教育に携わったことで、子どもたちに英語を学ぶ楽しさや海外の文化などを伝えたいとALTを志望。着任初日から授業に参加するなど、精力的に活躍されています。

錦戸さんは「たくさん子どもたちを前に授業をするのは初めてですが、先生たちと協力しながら楽しい授業をつくっていきたいです。いろんな国の人とコミュニケーションを取るための手段の1つとして英語に興味をもってほしいです」と抱負を話しました。